

語法研究：Provideについて

著者	今 佑介
著者別名	KON Yusuke
雑誌名	東洋大学大学院紀要
巻	57
ページ	97-114
発行年	2021-03
URL	http://doi.org/10.34428/00012684

語法研究：Provideについて

文学研究科英文学専攻博士後期課程3年

今 佑介

1. はじめに

本研究は、動詞provideの構文に関する研究である。動詞provideは、通例provide A with B (AにBを提供する)もしくは、provide B for A (AにBを提供する)の構文を取る。しかし、実際の英語の使用をコーパスで見ると、現在では用いない構造である二重目的語構文、つまりprovide A B (AにBを提供する)も存在する。(1)がprovide A with Bの例で(2)がprovide A Bの例である。

(1) We must provide them with something to sell. (BNC)

(我々は売れるものを提供しなければならない)

(2) We should provide them ham and stuff. (BNC)

(ハムやものを提供すべきだ)

Quirk *et al.*(1985) などの様々な先行研究において、二重目的語構文の用法は、アメリカ英語(AmE)で観察されるといわれている。しかし、*OED*では、provideについて、「使用するために(何か)を供給するため; 利用可能にする; 譲歩する、余裕がある。」の意味では、多くの場合、前置詞for, toで受益者を示す。また、時折、toなしで間接目的語がくる。つまり、現在通例とされているprovide B for Aの構文を取るか、現在用いられない二重目的語構文(provide A B)を取る。また、「何かを(誰か、動物、場所などに)提供する」の意味では、前置詞withが共起すると記載されている。

現代において、辞書や文法書では、ある辞書では二重目的語構文は誤用であるため使用を避けるべきと記載されていたり、ほかの辞書ではQuirk *et al.*(1985)と同様に略式のAmEでまれである、と記載があったりする程度である。概して、動詞provideの二重目的語構文は広く容認されていないようである。しかし、東・田島(2011)では、Times corpusを活用し、現

代AmEにおける、動詞provideの二重目的語構文とそのほかの構文の頻度調査をしており、磯(2017)では英米における動詞provideの頻度と、動詞provideの二重目的語構文の語用論的考察を行っている。両者ともにAmEにおける動詞provideの二重目的語構文のAmEでのDO-typeの使用が徐々に増えつつあり、容認傾向にあることが示されている。そこで本研究では、イギリス英語(BrE)における動詞provideの用法について考察を行う。BrEの大規模コーパスであるBritish National Corpus (以下、BNC)をもとに、量的、質的の双方向より調査し、動詞provideの用法について、二重目的語構文(以下、DO-type)とwith構文(以下、With-type)の差異について考察していく。

2. 先行研究

本章では、辞書や文法書より、動詞provideの用法を見ていく。辞書は現代における使用方法の記述であるため、語の現代における主たる使用方法を確認し、文法書などでは、provideの特徴的な用法について確認をする。

2.1. 辞書

本節では、provideについての辞書記述を概観し、まとめる。引用する辞書は『ユースプログレッシブ英和辞典』(以下、『ユース』)、『コンパスローズ英和辞典』(『コンパスローズ』)、*Oxford Advanced Learner's Dictionary*¹⁰ (OALD¹⁰)、*Cambridge Advanced Learner's Dictionary*³ (CALD³)、*Longman Dictionary of Contemporary English*⁶ (LDCE⁶)の5つである。

(a) 1 〈便宜などを〉与える; 〈資源などを〉供給する, 提供する; [provide A with B/ provide B for [to] A] A (人・物)にB(物・事)を提供する, 与える(▶forの方が普通) …Chickens *provide us with* eggs. ニワトリは我々に卵を提供する(▶《米略式》ではまれにChickens *provide us egg*.の形も用いる) (『ユース』)

(b) ① 〈…〉に(必要なものを)供給する、支給する、用意する、与える、〈物〉を(…)に供給する(⇒supply) … 言い換え The government urgently **provide** the victims **with** foods and clothes.[V + O with + 名] = The government urgently **provide** foods and clothes **for** [to] the victims.[V + O for [to] + 名]政府は被災者たちに食べ物と衣服を至急与えなければならない。(『コンパスローズ』)

(c) 1 to give sth sb or make it available for them to use …◇~ **sth for sb** We are here to provide a service for the public.◇~ **sb with sth** we are here to provide the public with a service◇~ **sth to sb** We **provide** financial **support** to low income families. (OALD¹⁰)

- (d) **1** [T] to give someone something that they need: ... *○we have concerns about whether the government will be able to provide viable social services **for** poorer families/ provide poorer families **with** viable social services.* ...

Common mistake: provide

When **provide** is followed by an indirect object, remember to use the preposition **with**.

Don't say 'provide someone something', say **provide someone with something**:

~~Could you provide us a list of hotels in the area?~~

Could you provide us with a list of hotels in the area? (CALD³)

- (e) **1** to give something to someone or make it available to them, because they need it or want it ... **provide sth for sb** *the hotel **provides** a shoe-cleaning **service** for guests.* | **provide sb with sth** *the project is designed to provide young people with work...*

GRAMMAR: Patterns with provide

- You **provide** something **for** someone: We provide information for parents.
- You **provide** someone **with** something: We provide parents with information.
- ✗ Don't say: We provide parents information. (LDCE⁶)

(a)~(e)の中で、まず、特筆すべき点は、『ユース』がアメリカ英語で略式ではあるが唯一、DO-typeを認めていることである。また、CALD³, LDCE⁶では、DO-typeを認めていない。そして、どの辞書でも、With-typeとprovide B for A(以下、For-type)の記述が確認できる。また、確認したどの辞書でも、With-typeとFor-typeの言い換えは可能と記述している。

そして、『ユース』と『コンパスローズ』の2つの英和辞典では、For-typeとTo-typeへの言い換えを可能としている。DO-typeを容認していないCALD³, LDCE⁶では、provide B to Aの構文(以下、To-type)についての記述は確認できなかった。

以上より、辞書では、まず、動詞provideのDO-typeについて略式ではあるが、容認として記述している辞書は『ユース』のみであるため、基本的にあまり容認される構文でないことが分かる。次にWith-typeとFor-typeはどの辞書でも記載があるように、動詞provideの主たる構文であろう。そして、To-typeは英和辞典2つとOLAD¹⁰には、記述があり、英和辞典では、For-typeと言い換え可能とされている。(a)~(e)の辞書記述を簡潔にまとめたものが表1である。

表1 provideにおける辞書記述について

	DO-type	With-type	For-type	To-type
『ユース』	○（米略式）	○	○	○
『コンパスローズ』	—	○	○	○
<i>OALD</i> ¹⁰	—	○	○	○
<i>CALD</i> ³	×	○	○	—
<i>LDCE</i> ⁶	×	○	○	—

2.2. 文法書

渡辺(1981: 221-224)では、動詞provideにおける4つのタイプについて、アメリカのインフォーマント7名のうち6名が全部を語法上、認められるとし、With-typeが最も頻度が高く、To-typeが最も低いとしている。他1名はTo-typeを語法上認められないとしている。DO-typeについては、～ someone *with* somethingとなっている前置詞withを除いて、someone somethingの形にできると、している。

また、Quirk *et al.* (1985: 1210)では、動詞provideにおける構文で、DO-typeはAmEにおける用法としている。小西(1980: 1146)では、DO-typeについて、With-typeにおける、前置詞withが省略されたものと記述している。

動詞provideにおいて、AmEではDO-typeは広く容認されており、それは、With-typeからの派生で、前置詞withの省略とされている。また、To-typeは人によっては容認されない構造であるようだ。

2.3. 通時的研究

Provideのそれぞれの構造の初出時期を、*OED*をもとに見ていく。以下の(1)～(4)はそれぞれのタイプの初出とされているものである。(1)がDO-typeで、(2)はWith-type、(3)はFor-type、そして、(4)がTo-typeの例である。

(1) *Provide* me ynke and paper, and I will write. (*OED*, 1581)

(2) *With* help of her.. So prudently with vertu hus to *provyde*. (*OED*, a1500)

(3) The bread and wyne *for* the Communion shall be *prouyded* by the Curate. (*OED*, 1552)

(4) Al thing that God and nature hath *prouydyd* to hym. (*OED*, 1538)

また、松本(2004: 72)によると、動詞provideは初期近代英語において、For-typeが最も多く観察された。そしてWith-typeよりDO-typeが多く観察された。DO-typeに関しては、*OED*の初出より約50年早い、1530年に初出があるという記載がある。その例が(5)である。

(5) God will *provide* him a sheep for sacrifice. (Tyndale, ch. 22, 15-6)

初出時期について、まとめると、表2のようになる。

表2 動詞provideのそれぞれのタイプの出現時期

DO-type	With-type	For-type	To-type
1530 年	a1500 年	1552 年	1538 年

表2より、どのタイプの構文も初期近代英語においては観察されていて、DO-typeが最も遅い初出ではないことがわかった。出現時期をもとに構文成立の変遷を考えると、DO-typeはWith-typeから前置詞withが省略され、成立し、DO-typeより、To-type, For-typeが構文変形によって成立したと考えることができる。しかし、出現時期にあまり差異がないため、上記の構文変遷ではないであろう。つまり、DO-typeは元々存在している構文であり、With-typeにおける前置詞withの省略ではなさそうである。

また、With-typeよりDO-typeの方が初期近代英語において多く使用されていることは興味深い。どのタイプでも初期より使用されていて、あるタイプが、あるタイプより派生的に出現しているようではない。

2.4. まとめ

本章について箇条書きまとめると、以下の通りである。

- ・動詞provideは初期近代英語において、4つのどのタイプの構文使用されており、使用開始時期の差異はない。
- ・動詞provideの元来の構文は歴史的にみてWith-typeである。
- ・初期近代英語において、For-typeでの使用が最も多く、With-typeはDO-typeより使用されていなかった。
- ・現代英語では、With-type, For-typeが広く容認されている。
- ・現代英語では、To-typeは辞書によって記述があるものと、ないものがある。
- ・現代英語では、DO-typeはAmEのみで容認されている。

3. コーパスに基づく数的調査

本研究では、BNCをもとに、BrEにおける、動詞provideにおける、それぞれの構文の使用頻度、DO-typeとWith-typeの差異について調査を行う。

BNCは1億語からなるコーパスで、その内訳は約90%が書き言葉、10%が話し言葉である。1985年から1990年までに出版され、記録され、あるいは話されたテキストが収集されている。2000年代のテキストが収録されていないため、厳密には、最新のデータとは言えないが、概ね現代における動詞provideの使われ方を確認できるといえるであろう。

BNCでの調査結果を記す。provideはBNCでは、50086例存在する。その中より、ランダムで1000例抽出した。With-typeは70例で、For-typeは107例、To-typeは24例で、DO-typeは0例であった。その他には目的語を一つとる(Provide A)の構文が743例で、provide for Aのようにprovide + 前置詞 + Aの構文が56例であった。

- (1) These have given up part of their holdings to *provide* GSR *with* its shareholding. (BNC)
(これらは、GSRにその株式保有を提供するために保有の一部を放棄した)
- (2) They *provided* new comforts *for* passengers, with their upholstered seats and faster running. (BNC)
(彼らは、布張りの座席とより速い走りで、乗客に新しい快適さを提供した)
- (3) Instructions imply *providing* new information *to* the recipient. (BNC)
(指示は、受け手に新しい情報を提供することを意味する)

(1)から(3)はランダムで抽出した1000例の一部である。これからにおいて、動詞provideはどれも「提供する」の意味で用いられている。ランダムで抽出した1000例では、考察対象外の目的語一つの構文、第三文型が一番多く、考察している4つの構文の中では、For-typeが一番多く、With-type、To-typeの順で検出された。DO-typeは検出されなかったため、BrEでも非常に稀な構文であることが分かった。

ランダムで抽出した1000例ではDO-typeが観察できなかったのも、次に、与格を人称代名詞に固定し、考察対象としている構文における共起数を観察する。コーパスでの検索方法は、DO-typeでは、動詞provide直後にタグ機能を用いて、人称代名詞の目的格(me, you, him, her, it, us, them)を置き、その構文があるかどうか観察する。With-typeでは、同様に、動詞Provide直後に人称代名詞を置き、その直後にwithをセットし、「provide + 人称代名詞 + with」で検査する。また、For-type, To-typeもみていく。For-type, To-typeの検索方法は、上記2つのタイプと異なり、与格が動詞provideの直後でないため、動詞provideの直後には「*」を置き、「provide + * + for[to] + 人称代名詞」で観察する。BNCでは、*は9語以内のすべての語句を検出することができるため、使用する。動詞provideの語形は現在形

(provide)、三人称単数(provides)、-ed型(provided)、-ing型(providing)の4つのパターンで調査を行う。そして、(4)の人称代名詞の所有格herや、(5)の接続詞providedのように本研究と関係のないものは、前後関係から判断し調査の対象とせずに、除外する。検出結果は表3のようになった。

(4) She *provides her own examples of sudden changes in behaviour*, some of which are very close to Pope's characters. (BNC)

(彼女は行動における突然の変化の彼女自身の例を提供します。そのいくつかは教皇の性格に非常に近いです)

(5) *Provided* he acts with good faith and all due care in the context outlined above, the doctor who turns off the ventilator does nothing to warrant criminal sanction. (BNC)

(誠意を持って行動し、上記の文脈で十分な注意を払っていれば、人工呼吸器をとめる医師は刑事制裁を正当化するために何もしない)

表3 与格が人称代名詞の場合における各タイプの構文検出結果

	DO-type	With-type	For-type	To-type
共起数	12 例	1194 例	68 例	19 例

表3より、4つの構文において、人称代名詞との組み合わせは、With-typeが一番多く、For-typeがその次に多く、To-typeとDO-typeの差は7例であった。先行研究の辞書や文法書で、通例とされているWith-typeとFor-typeが多い。そして、辞書で容認されているTo-typeと容認されないDO-typeの数的差があまりないことは特徴的だ。

以上より、動詞provideの用法の使用頻度は第三文型、For-type, With-type, For-type, To-typeの順である。また、与格が人称代名詞の場合では、with-type, for-type, To-type, DO-typeの順である。与格を人称代名詞に限定した場合、With-typeのほうがFor-typeより使用頻度が多いことは一つの特徴である。

次に、provide A B(DO-type), provide A with B(With-type), provide A for[to] B (For-type, To-type)における、対格に当たるBにくる名詞について見ていく。Bの語句において、不定冠詞(a / an)と定冠詞(the)の共起数を見ると、With-typeでは不定冠詞が455例共起しており、その割合は約38%で、定冠詞が183例で、約15%であった。DO-typeでは不定冠詞が4例で約36%、定冠詞が1例で9%。For-typeでは、不定冠詞が29例で、約33%、定冠詞は19例で約22%。そして、To-typeでは、不定冠詞が4例で約27%、定冠詞が2例で約13%であった。上記、共起数の割合より、どのタイプにおいても、不定冠詞の割合が約30%前後であり、冠

詞の割合は約15%前後である。どのタイプでも不定冠詞との共起が定冠詞より多い。With-type以外は検出数がすくないため、4つのタイプを正確に比較できているとは言えないかもしれないが、それぞれのタイプにおける割合のばらつきは少ない。

4. 質的調査

本章では、質の側面より考察するが、対象とするデータはすべてのタイプの構文が観察された、与格が人称代名詞の例をもとに、各タイプの構文の質の側面より観察し、それぞれの構文の特徴をあげ、比較していく。その次に、With-typeとDO-typeの意味の差異を考察する。そして、最後に、先行研究でWith-typeの前置詞with省略であるといわれているDO-typeの成立条件を考察する。

4.1. 特徴

4.1.1. 与格にあたる語句の特徴

与格にあたる語句は、どのタイプにおいても、「人」であることが多い。DO-type, To-typeの基本的に「人」であるが、To-typeには会社がくるの例がある。

(1) The interim client report which I showed as, again as an example which I *provided you a copy with*, is now available. (BNC)

(私があなたに提供したコピーにある例として、私が示した中間クライアントレポートが利用可能です)

(2) Consequently, managers are gaining confidence in *management information provided to them*, though, of course, this is a slow process and an evolving one. (BNC)

(その結果、管理者は提供された管理情報に自信を持っているが、もちろん、これは遅いプロセスであり、進化しているプロセスです)

(3) We are not going to renegotiate with BSkyB and we will not be *providing programming on a sales basis to them*. (BNC)

(我々はBSkyBと再交渉するつもりはなく、彼らに販売基準でプログラミングを提供するつもりもありません)

(1)は、DO-typeの例である。この例は会話におけるやり取りの一部である。そのため、ここでいうyouとは目の前にいる人物のことである。(1)の例以外もDO-typeの与格は「人」である。

To-typeの例が(2)と(3)である。(2)では、与格にあたる語句はthemであるが、文をみると、managersを受けていることが分かる。また、(3)ではBSkyBという会社をthemで受けている。確かに会社名は三人称単数扱いであるため、人称代名詞の単複の一致を考えると(3)ではitが正しいように思われる。しかし、メトニミー的にBSkyBという会社のその組織及びそこで働く人々と解釈すると、人称代名詞は複数扱いで問題ない。そのため、DO-typeとTo-typeの与格にあたる語句は「人」である。

次に、For-typeの特徴を観察する。For-typeの与格にあたる語句には「人」がくることはもちろんであるが、ほかには動物くる場合もある。

(4) Though pedestrians and cyclists are to be “encouraged to use *the facilities provided for them*” there do not appear to be any facilities other than the traditional footpath. (BNC)
(歩行者やサイクリストは「彼らに提供された設備の利用を奨励」されるべきだが、伝統的な歩道以外の設備はないようだ)

(5) Other bears will also use tools in captivity; spectacled bears use leafy branches, *provided for them to eat*, to knock fruit off overhanging branches or to retrieve floating bread from water. Underwater, a Californian sea otter carries a rock between its paws, and a sea urchin on its belly. (BNC)

(ほかの熊も飼育下で道具を使います。メガネグマは食用として提供された葉の多い枝を、張り出した枝から果物を叩き落としたり、水に浮かんでいるパンを回収したりするために、使用する。水中では、カリフォルニアのラッコが足の間で岩を運び、腹にウニを運ぶ)

(4)ではthemの前方にあるpedestrians and cyclistsと照応しており、「人」である。(5)における動詞provideの与格はthemであるが、これはspectacled bearsを指す。動物は、名前のない動物の単数形の代名詞はitであるが、名前のある動物で性別が分かっている場合、オスであればhe、メスであればsheを用いて区別する。複数の場合は名前などに関係なくすべてtheyになる。二文目をみると、a Californian sea otterはitで受けていることが分かる。そのためここでのthemは「人」のような認識ではなく「物」のように扱われていることが分かる。

そして、With-typeでは、与格にあたる語句に「人」がくることはもちろんではあるが、For-type同様に「人」ではない例が観察された。

(6) Although Robert Teeter remained as the nominal head of the Bush campaign, it was generally acknowledged that Baker would use his new post to exercise overall and ultimate responsibility for the campaign and attempt to *provide it with a greater degree*

of coherence. (BNC)

(ロバート・ティーターはブッシュキャンペーンの名目上の長としてのままであったが、一般的に認められていたことは、バイカーが彼の新しい地位を、全体的かつ最終的なキャンペーンの責任を行使し、より高い一貫性を提供しようと試みるために、使用することであった)

(6)では、与格にあたる語はitである。ここではthe Bush campaignを指す。人称代名詞がitであることからわかる通り、「人」でないことがわかる。

以上より、総括するとDO-typeとTo-typeの与格にあたる語句は「人」で一致していることが分かる。それに対して、For-typeとWith-typeでは、同様に「人」がくる。それ以外に、「物」扱いの語句もくることが分かる。よって、DO-typeとTo-typeが与格にあたる語句は類似しており、With-typeはFor-typeと類似していることが分かる。

4.1.2. 対格にあたる語句の長さ

次に、各構文の「provide A with B」、「provide B for A」のB部分的に焦点を当てる。二重目的語構文においてB部分是对格と表されることがあるので、ここではB部分を対格表現する。

対格の名詞句の長さは、「冠詞＋名詞」や「冠詞＋形容詞＋名詞」と短いものあれば、関係詞節や前置詞句などの修飾によって長くなっているものもある。対格の語句の長さを平均すると、With-typeではその長さが、約7.9語で、DO-typeでは、約4.0語。そして、For-typeでは約2.7語であり、To-typeは約3.7語である。With-type以外は約3語前後で同じ程度であるが、With-typeはそれらの約2倍といえる。対格にあたる語句がDO-type, For-type, To-typeと比較して長いことはWith-typeの一つの特徴といえる。

For-typeとTo-typeは与格構文であるため、対格にあたる語句の長さが類似していることは、一つの特徴といえるであろう。またDO-typeがFor-type, To-typeと対格にあたる語句の長さが類似していることは、With-typeとの一つの差異といえる。

(7) He might well have made some bargain with the Plantagenet — after all, this Edward owed something, for it was here, to Dunbar Castle, that his father, Edward the Second, had fled for refuge after the disaster of Bannockburn when Patrick, as a young man, had received him kindly and *provided him passage by sea to England*.

(彼はプランタジネット朝と交渉したかもしれない。結局のところ、このエドワードはダンバー城に何かを負っていた。なぜなら、ここにあったからだ。パトリックが若い頃、彼を親切に迎え、イギリスへの海路を彼に提供したとき、彼の父、エドワード2世は、バ

ノックバーンの災害の後で避難のために逃げたのは)

- (8) The low waters of this summer have *provided us with a superb opportunity for fish spotting* and also *for mapping the contours of the river bed*. (BNC)

(この夏の低水域は、我々に魚を見つける機会と、川床の輪郭をマッピングする機会を提供した)

- (9) “If enough of our members want us to *provide an exam for them*, then we should do that.” (BNC)

(「十分な数のメンバーが、我々が彼らに試験を提供してほしいと、思っているならば、我々はそれを行うべきである。」)

- (10) In order to increase its market share and to build exciting long term business prospects it was quickly realised that Noble Metals would have to *provide more value to its customers than their competitors*. (BNC)

(市場シェアを拡大し、刺激的な長期的なビジネスの見通しを構築するために、ノーブルメタルは競合他社よりも顧客により多くの価値を提供する必要があることがすぐにわかった)

上記、(7)-(10)はそれぞれタイプにおける、不定冠詞と共に起る例である。英語の文では、旧情報を先に置き、新情報を後に置くことが自然である。この既知情報から未知情報への流れは、4つのタイプ、すべての構文に当てはまる。

情報構造の観点から考察すると、(7)の焦点は*passage by sea to England*である。(8)ではa superb opportunity for fish spotting and also for mapping the contours of the river bedが焦点である。また、(9)では、for themであり、(10)の焦点はit's customers that their competitorsである。焦点が旧情報であるfor themやto usに来るが、久野・高見(2005)によると、DO-typeより、与格構文のほうが基本形である。DO-typeは意図的に語順を配列し直した構文である。そのため(9)や(10)は情報構造の流れに反していても適格である。

4.2. DO-typeとWith-typeの意味的差異

本節では、DO-typeとWith-typeの差異を考察する。例をもとに考察する前に、With-typeの特徴を考えてみる。

With-typeについて、この構文は動詞provideの後に名詞句が二つ出現し、「授与」を表すが、名詞句の間に前置詞withが介在するため、二重目的語構文ではない。そのためSVOA型とい

われる、ひとつの目的語と前置詞句を伴う構文である。この動詞は二重目的語構文をとることができる動詞と同じく3項動詞である。そのため、動詞provideにおいて、With-typeとDO-typeの違いは前置詞withがあるかないかである。前置詞withの意味を確認する。

前置詞withには「同伴」や「所有」の意味がある。そのため、動詞provideでは、供給することによって、人にもの(with以下の語句)を「同伴」もしくは「所有」させることを意味する。つまり、提供した結果、提供されたもの所有しすることを意味している。(11)の例文を参照されたい。

(11) In Zambia, WWF supports a government programme which allows plentiful game animals to be killed to *provide bushmeat for villages*, and which also *provides them with a share in the revenue from the strictly controlled trophy-hunting*. (BNC)

(ザンビアでは、WWFは、村に食用肉を提供するために大量の狩猟動物を殺すことを許可し、同様に、厳密に管理されたトロフィーハンティングからの収入の一部を村に提供する政府プログラムを支持する)

(11)はWith-typeの例の一部である。(11)ではWith-typeの他にFor-typeもある。With-typeの節におけるa shareはthe strictly controlled trophy-huntingで得られるものであるため、bushmeatの一部であることがわかる。For-typeの節ではbushmeatが村のために提供されるだけで、村がどの程度受け取るか、はたまた受け取ることができないかどうかは不明である。反対に、With-typeはprovideされた結果、bushmeatの一部である、a shareを「所有」することを暗示している。

そして、どちらも提供される物(bushmeatとa share)は村へ、つまり、受容者の利益になっていることがわかる。利益の授与であるため、与格構文がFor-typeになっていることも納得いく。どちらも提供物はおなじであり、受益者もvillagesである。これは言い換えをしているといっても過言ではない。そのため、2章であげた辞書でのWith-typeはFor-typeと言い換え可能という記述と一致する。与格にあたる語句の特徴も似ていることから、With-typeはFor-typeと同様の意味で使用されていると考えることができる。

次に、DO-typeとWith-typeを考察する。(12)では、With-typeを、(13)ではDO-typeを考察していく。

(12) I should be grateful if you would *provide me with* a list of your professional advisers as soon as possible. (BNC)

(もし、できるだけ早くあなたのプロのアドバイザーのリストを私に提供していただければ、嬉しく思います)

- (13) If she so please, I will take her home with me, and *provide her an altar as rich as yours*. (BNC)

(彼女がそうしてくれたら、私は彼女を家に連れて帰り、あなたのと同じくらい豊かな祭壇を彼女に提供します)

DO-typeについて、久野・高見(2005)をもとに観察する。DO-typeつまり、二重目的語構文は「主語が、間接目的語であるものに、直接目的語であるものを、受け取る(所有する)ようにする」ということを意味する。つまり(3)において、I(主語)がher(間接目的語)にan altar(直接目的語)を受け取る(所有する)ようにするということの意味する。

With-typeは、前置詞withの意味より、提供された結果、提供物を所有することを意味している。DO-typeは物の移動の結果、物を所有すること意味している。結果的に所有することはWith-typeもDO-typeも同じではあるが、着眼している箇所が異なっていると言える。With-typeでは提供された結果、どのようなものを所有しているかをということに着眼し、DO-typeでは物の移動に着眼している。

4.3. 動詞provideにおけるDO-typeの成立条件

本節では、DO-typeの成立条件を考察する。はじめに、二重目的語構文の変形である与格構文を少しだけ触れる。その次に成立条件を考察する。

- (14) a. John gave the girl a book.
b. John gave a book to the girl. (安藤2005:22)

- (15) a. My father bought me a tape recorder.
b. My father bought a tape recorder for me. (安藤2005:23)

(14), (15)は二重目的語構文とその書き替えである与格構文である。与格構文において、前置詞to/ forのどちらを用いるのかは、その動詞の意味によって決定する。前置詞toでの与格構文ならば、その間接目的語は受領者を表し、前置詞forならば、受益者を表す。

- (16) Some of the information *provided to you* will also be contained in the minutes of meetings referred to in the following paragraph. (BNC)

(あなたに提供される情報の一部は、次の段落で参照される会議の議事録にも含まれる)

- (17) To *provide a university education for her* might mark her out as a favoured pupil.

(BNC)

(彼女に大学教育を提供することは、彼女を好意的な生徒として目立たせるかもしれない)

(16)は動詞provideの前置詞toでの与格構文であり、(17)は前置詞forの与格構文である。(16)は過去分詞による後置修飾になっているが、与格構文が成立している。そのうえで、(16)ではsome of the informationが提供されるものであり、受領者をto youで表し、(17)では、a university educationを提供されるもの、つまり受益者をfor herで表している。動詞provideの基本的な意味は「授与」であるため、与える動作に着目するならば、前置詞toを用いた与格構文が適切である。そうでなく、「受益」であるば、前置詞forを使用した与格構文が適切であることがわかる。動詞provideはFor-typeもTo-typeも数的調査より確認できたため、受領か受益どちらに意味の重きを置くかで、どちらのタイプでも問題ない。

再度、動詞provideの意味を確認し、成立条件に移る。先行研究で確認した辞書であるLDCE⁶の定義をもう一度確認する。

(18) I to give something to someone or make it available to them, because they need it or want it

(1 誰かに何かを与えること、もしくは誰かに対してそれを利用可能にする、なぜなら、それを必要としているもしくは欲しているため…)

動詞provideは(18)にある通り、give(与える)の意味を有している。これはLDCE⁶以外の辞書もそのように定義している。動詞provideを違う動詞で書き換えるならば、giveやsupplyが適しているであろう。

(19) We argue about whether everyone has a right that the state protect him from assaults by other citizens, or *provide him a decent level of medical care*, or guarantee his security from attack by foreign powers. (BNC)

(私たちは、国家が、他の市民による攻撃から保護する権利、またはまともなレベルの医療を提供する権利、または外国勢力による攻撃から安全を保証する権利を誰もが持っているかどうかについて議論する)

(19)において、提供されるa decent level of medical careはhimつまりeveryoneが受けとるものといえるであろう。

動詞giveは「授与」を表す動詞として最も一般的である。そのため、動詞giveなど「授与」

を表す語で用いられていた二重目的語構文が類義語である動詞provideにも二重目的語構文の形式が拡張されていると考える。

要するに、With-type以外のタイプでは、For-type, To-typeで使用されていた動詞provideは、動詞giveなどの授与を表す動詞の構文形式を、授与という意味をもとに類推し、二重目的語構文を使用し続けているのである。そして動詞giveなどの授与動詞から類推されたならば、動詞provideのDO-typeは前置詞toの与格構文への変形が可能である。それはDO-typeとTo-typeにおける与格にあたる語句の一致からも裏付けができるであろう。

先行研究では、With-typeより前置詞withが省略されたものだとされているが、確かに音の関係より、音が他の語より弱く読まれる前置詞withが発音されなくなったと考えるのは自然な流れではある。しかし、数的調査より、前置詞with以下にくる名詞句の長さが他のタイプより約2倍長いため、省略によって二重目的語構文が成立していると考えより、類義語の構文より類推されていると考える方が自然である。

さらに、異なるDO-typeの例より検討する。

(20) “If we had not *provided you this delay, and this opportunity*, what would you have done?”…

…“If you had not, and the prince had consigned me again to that man's house, I should hardly have known what to do, or where to turn.” (BNC)

(「もし、我々が、この遅れとこの機会を提供していなかったとしたら、あなたはどうしましたか？」…「もしあなたがそうしなかったなら、そして王子が私をその男の家に再び預けられていたなら、私は何をすべきか、どこを向くべきかをほとんど知らなかったでしょう。」)

(21) “You *provided him his death*, others have *provided him a grave*.

You let him be.”

“To do strict justice,” said Isambard equably, “John the Fletcher *provided him his death*, and Benedetta procured him to do it.

But I don't quarrel with your version.

Harry, Truth is more than the naked facts.

I killed him.” (BNC)

(「あなたが彼に彼の死を提供し、他の人たちが彼に墓を提供したんだ。

あなたは彼をそうさせた。)

「厳格な正義を行うために」とイザムバードは平等に言った。「フレッチャーのジョンは彼に死を与え、ベネデッタは彼にそれをするように調達した。

しかし、私はあなたの見解と口論はしません。

ハリー、真実はありのままの事実以上のものです。

私は彼を殺しました。」)

(20), (21)は必要部分をやや長めに引用した。(20)では、this delay, and this opportunityを得て、何らかの行為または動作をしていることが分かる。また、(21)ではDO-typeが三回使用されているが、前後を確認するに、このhimは殺されている。つまりhimはdeathを受容しているということが分かる。そのため、DO-typeは受益というよりはむしろTo-typeと同様に、受領を表していることがわかる。

よって、動詞provideのDO-type成立条件は、まず与格にあたる語句が「人」であること、そして、その対格にあたる語句を受領していることである。さらに情報構造から言うと、対格にあたる語句は新情報であること。そして、その語句は少ない語数であるといえる。概していうならば、二重目的語構文の基本形(she gave Jim a book)のような、だれもがその構文を容易に想像できる構造でなければならないということであろう。

5. まとめ

本稿では、主に、BNCをもとに、動詞provideのWith-type, とDO-typeの比較、二重目的語構文の成立条件について論じた。動詞provideはもともと4つの構文を構成する動詞ではあるが、DO-typeは現代英語では、非常に稀な構文である。For-typeでは受益を表し、To-typeでは受領を表すことは与格構文より確認できることである。With-typeは動詞provideの元来持つ構文であるが、前置詞withの意味に着目し、DO-typeとの差異を考察した。DO-typeはWith-typeとほぼ意味は同じではあるが、With-typeは提供された結果の「所有」に重点が置かれており、DO-typeは、物の移動に重点が置かれている構文であることが分かった。この差は有意な差異だといえる。そしてDO-typeは前置詞forでの与格構文とは異なり、「受領」表現する。そのため、To-typeと類似的事であることが分かった。また成立条件は表層の間接目的語の種類と直接目的語の長さという形式的な部分にとどまってしまったことが悔やまれる。

今回は与格にあたる語句を人称代名詞に限定したため、動詞provideをすべて観察及び考察できていないため、正確な考察とは言えないかもしれないが、動詞provideのDO-typeとWith-typeの差異について、ある一定の見解を示せていると考える。次回このテーマを扱うことができるならば、動詞provideの全例に目を通し、観察、考察していきたい。また、動詞provideと同様の構文(動詞 A with B)とる動詞mix, combine, equip, loadなどの動詞も考察対象として研究を広げることができれば、SVOA型の3項動詞の解釈の一助となるだろう。

参考文献

- 安藤貞夫. (2005) 『現代英文法講義』 開拓社, 東京.
- 東真千子・田島松二. (2011) 「現代アメリカ英語における ‘provide A with B’ 型構文とその類型について」『別府大学紀要』 第52号, 11-19.
- 磯智憲. (2017) 「現代イギリス英語とアメリカ英語におけるprovide A B 型とprovide A with B 型構文のコーパス研究」『Zephyr』 第29号, 59-71.
- 久野暉・高見健一. (2005) 『謎解きの英文法 文の意味』 くろしお出版, 東京.
- 小西友七(編). (1980) 『英語基本動詞辞典』 研究社, 東京.
- 小西友七(編). (2011) 『現代英語語法辞典』 三省堂, 東京.
- 松本浩一. (2004) 「初期近代英語におけるprovide類動詞が現れる二重目的語構文」『長崎大学教育学部紀要人文科学』 第69号, 67-80.
- 松本浩一. (2005) 「二重目的語動詞supply点描」『長崎大学教育学部紀要人文科学』 第70号, 81-92.
- Quirk, R., S. Greenbaum, G. Leech and J. Svartvi (1985) *A Comprehensive Grammar of the English Language*, London: Longman.
- 渡辺登士(編). (1981) 『英語語法大辞典・第3集』 大修館書店, 東京

辞書

- 赤須薫(編). (2018) 『コンパスローズ英和辞典』 研究社, 東京.
- Cambridge Advanced Learner's Dictionary*, 3rd ed, 2008, Cambridge University Press, Cambridge.
- Longman Dictionary of Contemporary English*, 6th ed. 2014, Longman, London.
- Oxford Advanced Learner's Dictionary*, 10th ed. 2020, Oxford University Press, Oxford.
- Oxford English Dictionary* (<http://stri.toyo.ac.jp/login?url=http://www.oed.com/>)
- 八木克正(編). (2004) 『ユースプログレッシブ英和辞典』 小学館, 東京.

コーパス

British National Corpus (BNC) (<https://scnweb.japanknowledge.com>)

A Study of Usage of *Provide*

KON, Yusuke

Abstract:

In this study, the verb, *provide*, is considered. The main syntax in *provide* is “*provide* A *with* B” (With-type) and “*provide* B *for* A”. In corpora, however, the double object construction such as “*provide* A B” (DO-type) and “*provide* B *to* A” (To-type) are observed.

Some dictionaries state that DO-type should be allowed to use, and some grammarians declare that this is the ellipsis of “with” in With-type,

In this paper, ased on the British National Corpus (BNC), we investigate both quantitatively and qualitatively, and regarding the usage of the verb *provide*, DO-type and With-type are considered.

By using British National Corpus (BNC), it is observed that there is a certain difference between With-type and DO-type from the syntactic form. With-type and For-type are basically the mainstream. But DO-type is also observed in modern British English. Because it can form a dative construction and has the meaning of giving, such as give, buy, DO-type is accepted. However, it is clearly hard to say that Do-type is the same as the construction with the ellipsis of *with* in With-type from syntactic forms.